

# 秋の自然物 梧桐の實及び其他の

## 木の實の遊に就て

膳 眞 規 子

梧桐の實及び其莢をおもちやとする季節となり、又其他のいろ／＼の木の實も出来る季節となりましたので、これ等をおもちやとして遊ぶ仕方に就いて申し上げます。

梧桐は六月下旬より七月にかけて小さな花が集まつて咲き、夫れから鈴なりの莢が出来、九月の中頃より其莢がはせて、其ふちに四五個の薄緑色の豆がついて、數十の集まつた房の様になつて、高き木の間に出來ます。此莢を其儘に木に置きますと、後には乾きましてカラ／＼になつて、秋風

がそよぐ頃になると風に吹かれて散つて來ます。これを子供が喜んで、競争的に拾ひまして、室の中に持つて來ましていろ／＼のおもちやを作りましたのが、私が實施しました初めて御座いました。そこで最初は莢のない豆のカラ／＼に乾いた物で、細工をして居りましたが、或時大風が吹きまして、無慘にも青々とした梧桐の莢の鈴なりの房枝が、澤山に折れて地上に落ちましたので、實に惜しく思ひました。そこで其青々とした物を取つて來て、遊びかけました所が、其作工して遊ぶ

に、前に乾いた物で作るよりは大いに作り易く子供のおどけなき手に自由に工夫せられて、數等の好成績を挙げました。つまり大風の爲めに、非常によき經驗を得まして、おもちゃを作る上に都合よくなりました。

時に地方より親切に此梧桐の實を多量に、小包便で寄贈されましたが、何れも私共が以前の考への如く能く乾いた物で、折角の厚意も物足らぬ事となるので青々とした方が細工に都合よき事を申出で、其乾かぬ物を送らる様御依頼いたしました。

此梧桐の作工に就いては其實が豌豆と同じでありますので、糸に通して紐置きとし、又ヒゴに通して豆細工として豆細工の代用とし、又針金に通していろ／＼の形を作り、又乾いた物は貯へ置きて、使用の節はゆで、年中豆の代りに使つて居らるゝ園もあります。

莢はポルト、帆かけ舟、狐の面(眼は缺て切る) 狸の面(眼は豆で作る) 蟬(眼は豆で作る) 杓子さじ(柄は麥わらで作る) 二枚を合せて(合せ目にヒゴをさし) 籠を作り麥わらで手を付ける、草履花、蝙蝠傘、塵取り等を作る。

#### 其他の實の種類

檜、栗、松、榎、榎、くの木、椎、茶、山茶花 椿、藤、其他豆類。

いろ／＼の木の實が秋になると落ちます。これをおもちゃに用ひますに、なか／＼面白く工夫して遊びます。種類の多き程變化があつて、興味が深く是等の材料を、箸又は板排べに交せて與へますと、一層面白き工夫を表出して、時間の立つのも忘れて愉快に遊んで居ります。私は常に之れを見て、全く材料の幼兒の嗜好に適するものと存じます。若しも幼兒の嗜好に適しませんなら決して

幼児は全く我を没頭して興味深く遊びませんと存じます。

又種々の木の實を、植木鉢又は種蒔箱に又は苗床に幼児と共に蒔き、其發芽の状態より成長の順序を、實際に觀察せしめ、知らず識らずの間に、園藝に興味を持たしむる方便となり、又此幼児自ら採集せしもの、又は自ら蒔いた種物の發芽せし時の愉快さは實に格別で御座います。

植木鉢に成長した物は、何れも高價を投じた物以上に、非常に尊き物で、幼児はなか／＼大切にいたしましたして、可愛がりてよく培養いたします。幼稚園で蒔きました種々なる盆栽で、食卓を飾り一同會食いたします時は、非常に愉快で御座います。して、幼児の心にどれ丈け深く、どれ丈け大きく善良なる感情が培養せられて居る事と思ひます。斯る事は都會の地でも、一の心がけと一方少しの努力がありましたなら、容易になし得られます事

で御座います。

水瓜、カボチャ、柿、は食後其種を洗ひ乾かして排べ方に交せて用ゆれば、變つた遊びが出来ます。

以 上

福島縣保育會總會が十月三、四兩日福島市立幼稚園で開せらるゝ山、同縣保育界のため盛會を祈ります。